



年祭活動仕上げの時

教祖のお供として

教えを世界へ

陽夫

布教の家

立教188年度 入寮案内

ひながたを実践しよう



喜びを実感しよう

全国15カ所の布教の家。

寮生の年齢や立場はさまざまです。親からの信仰を受け継ぎ代を重ねた人もいれば、自ら信仰の道に入った初代の人もいます。

布教経験に関しては、ある程度慣れた人もいますが、ほとんど経験がない人も多くいます。これまで経験のない人も、布教の家での布教専従の1年間を通して、親神様のお働きを実感していくのです。布教の家は、むしろ布教経験のない人や布教に自信のない人にこそ入寮を志してもらいたい所なのです。「3カ月も歩けば、入寮前の自分がどれだけ頭でっかちだったか思い知らされる」と多くの寮生が話します。

雨の日も風の日も布教に明け暮れし、正面から親神様と向き合っこそ、尊い喜びを味わうことができるのです。

心の精神の理によつて働かそう。精神一つの理によつて、一人万人に向かう。神は心に乗りにて働く。心さえしっかりすれば、神が自由自在に心に乗りにて働く程に。

(明治三十一年十月二日)

目 次

●ひながたを实践しよう 喜びを实感しよう	1
●全国の布教寮	3
●布教の家寮生の声	4
●布教の家とは	6
●さあ！ 布教の家へ 布教の家の一年間	
①「入寮研修会」でぢばの理を頂いて	8
②布教の家の一日	9
③布教経験豊かな 育成員の指導	10
④団参を通して さらなる感謝と自覚	11
⑤おぢばを目指し さらなる成人を	12
⑥布教の家を土台に 新たな布教活動へ	13
●布教の家寮生 生活規則	14
●各寮の紹介	
北海道	15
青 森	16
東 京	17
埼 玉	18
千 葉	19
愛 知	20
石 川	21
大 阪	22
和歌山	23
兵 庫	24
岡 山	25
広 島	26
愛 媛	27
福 岡	28
※立教188年度は、徳島寮の入寮生募集はありません。	
●布教の家 所在地一覧	29
●立教188年度 布教の家 入寮要項	30

全国の布教寮

男子寮12カ所・女子寮3カ所



※ () 内は定員数

猛暑の中にをいがけに歩く日々 火水風の御守護を実感

猛暑の中、火水風の御守護を実感させていただきます。肌を焼く日差し、全身から噴き出す汗、そして汗を乾かしてくれる風。決して冷たい風ではありませんが、おかげで汗が引き、涼しさを感じられます。

「風」は身の内では「息吹き分け」と教えていただきます。一軒一軒訪問する中、涼しい屋内からわざわざ外に出てきてくださる方々に、私ができることは御教えを話し伝えることだけです。食物もジメジメと暑い中に放置すると腐ってしまうように、人も一人で閉じこもってはいは悩んでしまう人もおられるように思います。食物にも人にも風通しの良さが必要なのかもしれない。親神様の御教え、御守護をお伝えし、数分の間でも「外に出て良かった」と思ってもらえたらうれしい。そう考えながら、これからも引き続き親神様の懐住まいをさせていただいている大恩を忘れず、一人一人に向き合ったおたすけという恩返しの道を歩ませていただきたいです。 (大阪寮 男性)



人をお連れしてのおぢばがえり それが当たり前ではないと痛感

「こどもおぢばがえり」団参に向けて、戸別訪問の中でお誘いをしたり、こども会を企画したりしましたが、残念ながら団参の参加人数はゼロでした。ですが、教区の方から温かいお心を掛けていただき、少年会員2名をお連れして団参をさせていただくことができました。

またうれしいことに、こども会に参加してくれた小学生4名が、兵庫寮の隊とは違う団体ではあるものの、今年初めて「こどもおぢばがえり」に参加してくれたとお聞きしました。私たちの企画したこども会がきっかけとなっておぢばにつながってくれたことが本当にうれしいです。

今回団参を組む中で、お誘いの難しさを感じ、また引率にあたる方々がどれだけ苦心してくださっているのかを知ることができました。人をお連れしておぢばがえりできるのは、当たり前のことではない。今のままでは足りていないと痛感しました。もっともっと必死になって歩かせていただきます。

(兵庫寮 女性)



布教の家とは

決して練習所でも研修所でもありません。

ひたすらにをいがけ・おたすけを実践する場です。

●全国に15カ所の布教の家

布教の家は、布教を志す者が実際にをいがけ・おたすけに明け暮れる場です。ただ歩くだけではなく、そこに喜びの心を持てるよう、歩きながら自

らの信仰を見つめ直す場でもあります。

現在、布教の家は北海道から九州まで、全国に男子寮12カ所、女子寮3カ所が設置されています。

●まず布教師がいて 布教の家ができた

布教の家の設立は、今からおよそ70年ほど前にさかのぼります。

当時、戦後の厳しい生活難の中、お道の布教師は野宿のような状況で布教をしていました。そんな状況の下、教区の好意により、単独布教師に教務支庁舎の一部が提供され、布教師は定住

地をご守護いただくまでそこを拠点として布教に歩いたのです。それが布教の家の始まりです。

つまり、布教の家を設立してから布教師を育てたのではなく、まず布教師がいて、布教の家ができたのです。

●まさに布教実践の場

このような成り立ちからも分かるように、布教の家は決して布教の練習所や研修所ではありません。ひたすら、をいがけ・おたすけを実践する場です。育ててもらう所ではなく、自らが布教師として育つ所なのです。

たすけ一条の歩みこそがようぼくの

使命。教祖のひながたを万分の一でもたどらせていただこう。その決意と情熱を胸に1年間懸命に、をいがけ・おたすけに励む。それが布教の家です。ただ、身構える必要はありません。教祖のひながたは誰もが通ることのできる万人のひながたなのですから。

●経験豊かな指導者と良き仲間の中で

毎日の布教道中は、晴天の日ばかりではありません。そんなとき支えとなってくれるのが、寝食を共にする仲間です。また仲間は良きライバルでもあり、互いに切磋琢磨する砥石といしでもあります。

また各寮には、寮長はじめ育成員がいます。教区管内の布教経験豊かな方々がその任に当たり、さまざまなア

ドバイスをしてくださいます。

各寮には、長年続いてきた寮のカラーがあります。もちろん地域的な特色もありますが、どの寮も、教祖のひながたを求めて素直に神恩感謝のいをいかけ・おたすけを実践するために、寮生たちと正面から向き合っており取り組んでいます。

●生涯の宝として

布教の家での1年間は、それぞれの教会の御用や私事から離れて、完全に布教に没頭する毎日を送ります。だからこそ素直に真つすぐひながたを通る基盤がつくれ、生涯の布教生活の心を定める貴重な仕切りの1年となるの

です。この1年間に味わうさまざまな経験は、かけがえのない心の宝になるでしょう。

寮生の中には、卒寮後も現地に残り、布教を続ける人も少なくありません。

●思い切って布教に出よう

私たちようぼくは、定命を25年縮めて現身をお隠しになられてまで世界たすけをお急き込みくださった教祖の思召に、何としてもお応えしなければなりません。私たちが歩む道は、たすけ一条の道あるのみです。そのために教祖はひながたをお示しになり、道の先頭に立ってお導きくださっています。

しかしながら、頭では分かっている、日常の生活に追われてなかなか思い切って布教に徹することができない自分がいませんか。

だからこそ、思い切って布教に出ましょう。この1年を仕切って、まずは布教の家に飛び込んでください。

さあ！ 布教の家へ

布教の家の1年間

1 「入寮研修会」で ちばの理を頂いて

布教の家に入寮する前に、おちばで「入寮面接会」「入寮研修会」を受けます。

「入寮面接会」では、各寮の寮長はじめ育成員が出席し、入寮希望者本人とその保護者に対する面接が行われます。「これから布教一筋に通るのだ」という意志の確認と入寮までの心づくりをします。

入寮が決定し、各布教の家へ出発する直前には「入寮研修会」が行われます。布教経験豊かな先輩のお話を聞いて単独布教師としての基本的な心構えを学び、またこれから共に歩く仲間である寮生同士での話し合い

を通して、あらためて布教に出発する決意を固めます。

ちばの理を頂き、その理をしっかり胸に治めた寮生は、決意も新たに、その足でそれぞれの布教地へと向かいます。



2

布教の家の一日

布教の家の一日は、朝の神殿掃除から始まります。朝づとめ前の早朝から起床し、全員で神殿や教務支庁の清掃ひのきしんをします。

朝食はパンのミミだけの目もありません。これが一日の活力源です。朝食を終え、定刻になると、にをいがけに出発です。

ほとんどの寮生にとって、そこは見知らぬ土地です。しかし地図を片手に戸別訪問に回るうちに、1週間もすれば、おぼろげながら地理もつかみ、1カ月もすれば、布教のやり方が自然と身に付いてきます。

午後4時ごろ、足を棒にして帰寮。神殿掃除などひのきしんを終えると、当番の寮生が心を込めて腕をふるった楽しい夕食です（昼食抜きで、朝夕は寮生の自炊）。

夕づとめ後、その日の出来事を仲間と共に語り合い励まし合って、明日への活力を養います。その他の日課としては、全員そろってのお願いづとめや神名流し、駅前清掃ひのきしんなども行います。また、毎月定例日には、教区の担当の先生や布教の家OBと共に寮祭をつとめます。



▶ 一日の活力となる朝食を頂く

さあ！ 布教の家へ

3

布教経験豊かな 育成員の指導

入寮後、必死に戸別訪問に回っても断られてばかり。おさづけの取り次ぎはおろか、お話を聞いているだけではない。そんな日が続くと、どうすればよいのか分からなくなり、次第に落ち込む日も出てきます。そのようなき、寮生の後押しをしてくださるのが、寮長はじめ育成員の先生方です。

布教の家では、その地で長年布教にいらした経験豊かな方々が、寮長・育成員・本部派遣委員として寮生を常時指導してくださいます（本部派遣委員は一部の教区のみ）。寮生を叱咤激励し、時には寮生と共に歩き、身をもって布教師としての在り方を示してくださいます。

「初めての3カ月が大切。とにかく歩くこと。戸別訪問以外に道はない」

この先生の言葉を受け、最初の3カ月、寮生はがむしゃらに歩き回ります。すると不思議にも、一軒、また一軒とお話を聞いてくださる所ができてくるのです。

このころになると、深夜の神殿で十二下りのお願いとめをしたり、断食をしたりと、それぞれで心定めや理づくりをする寮生も出てきます。こうした動きが仲間同士の良い刺激となり、布教の家は、たすけ一条に邁進する布教師の拠点にふさわしい雰囲気へと変わり、まさにおたすけの現場となっていくのです。

4

団参を通して さらなる感謝と自覚

寮生は原則として、入寮中の1年間は、別席者やおちば帰りをしてくださる方をお与えいただかない限り、おちば帰りはできません。大教会や所属教会への参拝、各種行事への参加も同様です。まさに布教一筋の日々です。それ故に、一人の方をお連れする苦勞、それが成ったときの喜びを味わうのです。

また、個々に人をお連れして帰参するほか、寮で団参を計画することもあります。個人の帰参と違って、団参は事前に期日や内容を決め、寮生全員で役割分担し、帰参人数を心定めて、お誘いに回ります。一日中をいがけやお誘いに奔走し、帰寮してからも、寮生たちは「どうすれば帰参者の方々に喜んでいただける団参にできるか」と、時には夜遅くまで話し合いを重ねます。そうして寮生たちは互

いの絆を深め、力を合わせるこのの大切さや勇ませ合う喜びを実感していきます。

またこうした団参は、生活の慣れからくる気の緩みや不安を吹き飛ばす、この上ない刺激となつて、大きな喜びと感謝、やればできるのだという自信につながります。同時に、おちばに人をお連れすることが自分の使命なのだという自覚も出てくるのです。



▲喜びいっぱいのおちばがえり

さあ！ 布教の家へ

5

おぢばを目指し さらなる成人を

夏も終わりを告げるころ、いよいよ本格的なをいがけ・おたすけに入っていきます。通い

先へおさづけを取り次ぎに向かう人、とにかくおぢばへ帰っていただくとお誘いに回る人、それぞれが自分のをいがけスタイルを身に付けていきます。

婦参者をお連れしておぢばに帰ってきた寮生は、婦参報告のため布教一課を訪れます。その寮生の顔には、さすがしさの中にも布教師としての精悍さが表れ、入寮時との違いがはつきりと見てとれます。

寮生の活躍は、各寮から毎週布教一課へ送られてくる「週間報告書」からも分かります。報告書には寮の現況やおさづけの取り次ぎ回数などが記されており、それは『布教の家週報録』

として編集され、毎月、寮生・保護者・各寮担当者などに配布されます。

また、週間報告書と一緒に「おぢばへのお願ひ」も送られてきます。その用紙には、寮生がおたすけにかかっている人の名前やお願ひの内容などが記入されています。これをもとに、布教一課長が各地の寮生に代わり、おぢば・かんろだいにお願い申し上げます。

また9月には、おぢばで「寮生保護者会」が行われます。寮長はじめ育成員の先生方と寮生の保護者が、寮生の現状や、保護者の陰の理づくりの大切さについて話し合い、寮生のみならず保護者も共に苦勞しようと思っ

6

布教の家を土台に 新たな布教活動へ

寮生に休みはありません。10月には「秋季大祭」、年明けには「お節会」。また各寮で期に応じて自主的に団参を組みます。そのほかにも「陽気ぐらし講座」などを独自で計画する寮もあります。心定めの人数達成に向け、常に目標を持って街中を東奔西走するのです。

そうしたにいがけ・おたすけの中に身を置くうちに、長いと思われた1年も、あっという間に過ぎていきます。

3月の卒寮時には、布教の家の最後の行事として、おちばに全寮生が集まって「卒寮の集い」が行われます。この集いにおいて、布教の家での尊い1年を土台として「新たな布教活動に邁進しよう」と、新たな門出を誓い合います。

実際に、卒寮後もそのまま単独布教師として現地に残る人が

毎年います。そのほか、自教会などを拠点として布教に歩く人も多数います。卒寮はゴールではありません。それぞれが生涯一布教師としての新たな一歩を踏み出すスタートなのです。

布教の家での生活は、わずか1年間です。しかし、布教実践の中に身を置くその1年間で本当に多くのことを学びます。親の思い。日々頂く御守護。先人の苦勞。自らのいんねん。この1年間で培ったことはお道を通じていく上での生涯の宝となるでしょう。

布教を志す人は、奮って布教の家へお越しください。またそのような人を、ぜひ送り出してください。教人であれば、年齢や性別は問いません。一人でも多くの方の入寮を心よりお待ちしております。

生活規則 生寮家の教布

寮生活は、常に教祖の道具衆たる自覚の上に、あらゆる苦勞を乗り越えて、よ
うばくの生命であり至上の使命であるにをいがけ・おたすけに勇んで励む毎日
であらねばならない。

- 一、教区長および寮長の指示に従う。
- 一、布教の家の一日は朝づとめ（朝のお掃除）から始まる。定めの時刻には起床。
夕づとめも、おたすけ先の都合以外、必ずつとめる。
- 一、寮祭などを除き、毎日晴雨にかかわらず布教に尽くす。
- 一、服装は、布教師にふさわしく清潔で礼儀正しい姿を心がける。
- 一、朝づとめ前、夕づとめ後のひのきしんは、勇んでさせていただく。
- 一、おちば帰りおよび上級教会や所属教会への参拝は、参拝者、別席者、修養科
生を連れてのみ行えるものとする。原則としてそれ以外の事由では布教地を
離れることなく、布教に専心する。
- 一、生活費は一人月六、〇〇〇円とする。
- 一、食事は原則として朝夕の二回とし、自炊する。
- 一、毎週、所定の用紙により週間状況を布教一課へ報告する。

※右記の規則を守らない場合は、退寮を命ずることもある。

北海道寮

男子 5 名



▲寮の紹介ページ
紹介ビデオも視聴できます



北海道寮は昭和49年に開設され、今年で50年を迎えました。

開設当初から教祖と共に歩かせていただく熱い思いは変わらず現在に至ります。

寮の一日は神殿掃除に始まり、朝づとめ、朝食、掃除、お願いづとめの後、にいがけに出発。神名流し、路傍講演の後、それぞれ分かれて歩きます。

この1年間というのは「つとめ切った事実」をつくるのが大事です。つとめたのは他人ではなく自分。種を蒔くのも伏せ込むのも全て自分。だからこれは今後のおたすけの上、人様のためになり話の台になります。必ず役立ちます。

卒寮後は自分なりに心定めて「よし行こう！」と思っても、さまざまな役を仰せつかればだんだんと細々としかにいがけができなくなつてきますが、そこを続けていく強い心、つとめ切った事実がじわじわと芽吹いてきます。皆さんは教祖の手足となるおたすけ人です。卒寮後もこういう心で通れる指導をしてくださる育成員ばかりです。

「事実」は一生の宝です。つとめた、つとめ切った1年という事実づくりと自分づくりにぜひお越しください。あなたの入寮をお待ちしております。

青森寮

男子5名



▲寮の紹介ページ

紹介ビデオも視聴できます

「青森は布教がしやすい。戸別訪問をしても、むげに断られることはめったにない」と、これはある卒業生の言葉です。

寮の運営は、寮長以下約20名の育成委員が、寮生のお世話取りに当たります。中でも近年、地元出身の寮生が卒業後引き続きOB・育成委員として寮運営に携わり、寮生と共に布教に歩き、時には寮生のおたすけの助力となって活躍するようになってきました。

また毎月一度開催されている本部派遣委員の勉強会は、地域のように多く信者の参加が年々増え、現在では20〜30名の有志が集まり、布教・おたすけ熱を高める場へと発展しています。

さらに各支部に置かれている運営委員が担当し、年に数回、泊りがけ

または日帰りの遠隔布教も実施されます。県内いたるところに遠いおちばの理を流す役割も、寮生に期待されているからです。

要するに布教の家は教区の布教者が寄り集う拠点であり、人材育成の場として大いに機能を果たしています。

風光明媚で、人情味豊かなこの青森で、あなたも存分に「生かされている喜び」を体得してください。そしてできれば、たとえ1人でも2人でも、おちばにお誘いしてください。「ふるさとに帰りませんか」と、来る日も来る日も30万市民に言葉を掛けてください。

そして1年過ぎたとき、ここ青森が第二の故郷になっていることに気づくでしょう。



東京寮

男子10名



▲寮の紹介ページ

紹介ビデオも視聴できます



開設以来70年を数え、今年もここ
東京で布教を志す情熱を持った若者
が入寮し、今も毎朝多くの人が行き
交う駅前ではよるづよ八首をつとめ、
路傍講演と清掃ひのきしんで、一日
の布教活動をスタートしています。

東京寮では「歩こう・汗をかこう
・恥をかこう」を合言葉に、地道に
コツコツおたすけ先を求めて歩きま
す。また帰寮した後も、夜の清掃ひ
のきしんやインターネットの活用な
ど、さまざまなアプローチでのにを
いがけにも積極的に取り組んでいま
す。

さまざまな地方の出身者のみなら
ず、世界中の人々が集まるこの東京
で
一、元のをやの存在とそこご守護に
よって生かされているという
のちの真実

一、陽気ぐらしこそが人生の目的で
あること

一、「人をたすけて我が身たすかる」
このことを堂々と広く人々にお伝
えし、ようぼくたる使命感を持って
布教に取り組んでいます。

核家族化が進み、少子高齢化が大
きな社会問題となる中、孤独で悩む
人々や希薄な人間関係から、心の絆
を求めている方が大勢おられます。
そうした中でいかに心の扉を開き、
信頼関係を築き、真実のをやの御心
を伝えていくか。心悩める人々に、
教祖の親心を何としても届けたい。
それが我ら東京寮なのです！

時あたかも教祖140年祭に向かう三
年千日活動の最中であって、「世界た
すけ」を志すあらきとურიようは、
さあ！ 来たれ東京寮に！

埼玉寮

男子8名



▲寮の紹介ページ
紹介ビデオも視聴できます



埼玉寮の指導方針は、寮の一年を単なる布教経験で終わることではなく、卒業後にそれぞれが単独布教に出る布教師になることを目標とし、たった一人であっても教祖の「たすけ一條」の御旗を掲げ、コツコツとをいがけ・おたすけに歩ける人材「炎天下一匹の蟻」を目指すことにあります。

そのため、甘え、妥協を徹底的に排し、日々の生活では、布教の家設立の主旨「単独布教師」にできるだけ近づくことを求めています。

布教方針は、

- 一、なぜ布教するのか、「いんねん」の自覚と「ようばく」の使命について徹底的に練りあう。
- 二、がむしゃらな戸別訪問で自分の殻を破る。
- 三、「にをいがけ」とは現場での「おさづけ」取り次ぎと「初参拝」を目標にする。

そのために経験豊かな育成員が月に数回、寮生の求めに応じて一緒に戸別訪問に回り、布教の仕方を、身をもって伝授します。

また、随時、信仰相談の時間を作って寮のスタッフが親身に面談をいたします。

その結果、一人でのいがけができるようになり、生涯にわたっておたすけをする方をお与えいただき、寮生活を終えるころには生涯の布教地の一つとして現地に残って、また各地で布教を生涯のつとめとして通れるようになります。

令和6年度には、寮舎が新しく建て替えられました。

本物の布教師を目指すなら、ぜひ埼玉寮にお越しください。共に歩み、全教に布教の渦を巻き起こし、世界だすけの最前線に立とうではありませんか。

千葉寮

女子 8 名



▲寮の紹介ページ
紹介ビデオも視聴できます



千葉寮では、目まぐるしく変遷する社会状況を踏まえ、女性布教師の安全も視野におき、長い目で考えたらどのような布教がこの女性布教師たちの財産になってゆくのかを考え運営しています。

入寮当初、一人一人には確かな入寮動機があります。けれど、全ては親神様の親心から巡り会い、文字には書き尽くせない、自身で求めている通れない貴重な時間が与えられてゆきます。日報に所感を書き、一日一日を大切に振り返っていただきます。その中で、おたすけを学びたい寮生に、ご恩を心に治め、見せられたことに親心を探る、布教の土台となるしっかりとした信仰心を身に付ける

ことを重視して、指導にあたっていきます。卒寮後も最終的に自分が落ち着く場所で布教する時の財産となればと考えます。

さあ、教祖お一人から始まったこの道をどう通りますか。今は全教が教祖50年のひながたをせめて3年間歩もうという旬にいます。この3年の歩みを、50年のひながたを辿ったと同様に受け取って守護してやろうと、親心向けられている旬にいるのです。ぜひとも、この親心に甘えてしっかりと力を出し切って、教祖140年祭を迎えてみませんか。この年祭の旬に思いっきり種まきをしたい方、お待ちしています。

愛知寮

男子12名



▲寮の紹介ページ
紹介ビデオも視聴できます



愛知寮が開設されたのは、15寮の中で最も早い昭和26年でした。72年の歴史を持ち、出身者は1千130名を数えます。

開設当初の寮舎は進駐軍が放出したかまぼこ型のブリキ小屋でしたが、現在では、創立100周年記念事業の一環として新築された寮です。

愛知県内には教勢の盛んな教会も多く、布教熱の高い土地柄も寮生の布教意欲を駆り立ててくれます。

現在の育成体制は、寮長、副寮長の指導のもと、育成員による定期的なねりあいや、共ににをいがけに歩くなど、こまめに寮生をバックアップしています。

また、愛知寮出身の単独布教師が集まり、体験談と話し合い、経験豊富な先生方による教理勉強会など、学ぶ機会にも恵まれています。

日課は5時起床、神殿掃除、町内の清掃、朝づとめ、朝食、9時出発式、16時帰寮、夕食、夕づとめ、神名流し、ミーティングで一日の終わりととなります。神名流しは毎日夕づとめ後に行う以外にも、月に一度、名古屋駅や栄といった繁華街で路傍講演と共にを行います。

寮の月次祭である寮祭では、教区内外から布教経験豊かな講師による講話を頂いています。

さらに、多数の青年会との布教実修、天理教校本科実践課程の受け入れなど、寮生の勇みと励みになる行事も愛知寮の特色です。

初代の信仰を今に返し、にをいがけ・おたすけに専心するべく伝統ある愛知寮で「布教師」の第一歩を踏み出してください。

入寮を心よりお待ちしております。

石川 寮

男子 6 名



▲寮の紹介ページ

紹介ビデオも視聴できます



石川寮では「一人一人の自立と成人」を目指した指導を中心に、親神様、教祖と自分の直結した信仰心を養い育ててもらえるよう、丹精の上に取り組んでいます。「苦勞は喜びの種」と布教道中の体験の中から見えてくる気づきや学びと、大きな喜びや感動、そしておたすけを通して自ら磨かれていく心の成人を感得してもらおうべく、経験豊富な育成員一同が、真実を持って寮生をサポートしています。

単独布教より教会を設立し、現在も現役布教師としてご活躍されている本部派遣委員によるお仕込みと、各個別面談も毎月別の日に行うことよって、より細やかな指導体制も整えています。

さらには、国内はもちろんですが、

海外布教にも力を入れていらっしゃる先生は、現役の単独布教師をはじめ、卒業後も純粹に布教を志し、石川の地で布教に専従しているOBも真実を持って育成に携わり、お世話させていただいています。

また、教区管内の主事先生、諸先生方にも全面的にご関与、ご協力を頂き、石川教区挙げての万全な受け入れで寮生をお待ちしています。

この石川寮で、教祖のご苦勞を見つめながら、ひながたの道をたどり、地道に真剣に歩む日々は、きつと生涯に亘ってのかけがえのない信念と自信という宝となることでしょう。布教を通し、自らを磨き成長する生き甲斐と信仰の喜びを共に分かち合える日を楽しみに、熱意ある皆様の入寮を心よりお待ちしております。

大阪寮

男子8名



▲寮の紹介ページ

紹介ビデオも視聴できます



大阪寮は、平成元年4月、教務支庁内の旧「天理助産所」の建物を改装して創設されました。先人たちの輝かしい単独布教の足跡と熱い思いが込められ、人間誕生の場所が、布教師を生み出す所に生まれ変わり開設されたのです。

平成12年には現在の新しい寮舎が落成し、これまで300名を超える布教師を送り出しました。おちばに近いという大阪寮の地の利を活かし、にいがけさせていただいた人々をおちばにお連れする機会は数多く与えていただけます。

大阪寮では、寮長含め15名の育成委員が寮生の指導に当たり、いつで

も身近に、寮生からいろいろな相談に乗れる態勢を整えています。また、単なる1年間の布教経験に終わることなく、生涯求道者たる信念の育成を目指しています。卒業後に残る単独布教中の先輩たちも多く、そんな先輩たちからの話も良い刺激になります。

さらに、専修科の夏季布教実習や、一日入寮の有志による布教実習の受け入れなど、布教を志す若人たちの交流も盛んに行い、お互いに素晴らしい刺激を与え合う機会としております。

大阪寮は万全の受け入れ態勢で、皆様のお越しをお待ちしています。

和歌山寮

男子 6 名



▲寮の紹介ページ

紹介ビデオも視聴できます



和歌山は、おちばのある奈良県に隣接し、早くから道の布教が盛んに展開され、おちば帰りもしやすく、現在では3カ所の大教会と約400カ所の分教会が教区管内に点在しています。また、県民のお道への認識は高く、地域に根付いていて、気候も温かな土地柄です。

現在寮は、寮長と11名の育成員（男性9名、女性2名）によって、長い1年間の布教と寮生活の両面で寮生をサポートし、殊に育成員の多くは寮近辺の若い教会長やOBであり、同じ立場に立って指導し、時に行動を共にしています。

また、教区内の熱心な布教師の集まりである「わだちの会」に月2回参加し、布教やねりあいを通して刺

激をもらって布教意欲を高めています。

卒寮した後も、にをいの掛かった方をそのままにしないことも卒寮後の大切な角目であることを思う時、何といってもありがたいのは、おちばから近く、修理や丹精に赴きやすいというこの利便性ではないかと思えます。事実、卒寮後も現地を訪れるOBは数多くあり、中には教会設立を目指して布教に専念している布教師もおります。一年間教祖のお供をさせていただき自主性を重んじ、布教生活の中で「自分の心に道をつける」意思を持って来られる方を、教区関係者一同心からお待ちします。

兵庫寮

女子9名



▲寮の紹介ページ
紹介ビデオも視聴できます



兵庫教務支庁の正門を入って左手に布教の家兵庫寮があり、神戸市内の風景がひとときわ美しく見渡すことができ、とりわけ一千万ドルの夜景は素晴らしい限りです。

兵庫寮は、教祖70年祭前の昭和29年に開設され、同31年より女子寮として現在に至っています。以来、布教の家を巣立った者の中から教会を設立して教会長になっている人や各地で活躍している教会長夫人が多くいます。

寮生は3月30日に入寮して以来、「御存命の教祖のお供」を合言葉に、ただただひたすらに歩きます。まずは種まきに重点をおき件数を定めての戸別訪問に専念、7月末～8月にかけての「こどもおちばがえり団参」、また後半には、マイクロバスでの毎月の別席団参に取り組みます。

寮生に対する毎月の丹精は教区長夫妻による講話や女鳴り物の練習をはじめ、寮長・育成員とのねりあい適宜行い、また際立って布教の活発な教会へ出向いての熱ある実修とねりあいでの寮生の布教意欲は高まります。

さらには寮長と副寮長、育成員による布教実修を状況に応じて実施し、きめ細やかな相談と育成に当たっております。

1年間兵庫寮で学び、神戸の街を布教する日々が、毎年大きな成果をお見せいただくこともさることながら、汗と涙を流してこの坂道を上り下りすることにより、それぞれが生涯お道を歩む上の礎を築かれることを確信させていただきます。

岡山寮

男子 6 名



▲寮の紹介ページ

紹介ビデオも視聴できます



岡山寮では、夢とロマンをもつて
布教に取り組む人材を育成していま
す。

「にをいがけ、おたすけのできる
ようばくに」「ご守護を実感し、神
様に凭れ切れるおたすけ人に」そう
した思いで入寮した方に、当寮では、
とりわけ「おさづけの取り次ぎ」と
「おちばがえり」に力点をおいて指
導しています。

ひたすら心を低くして戸別訪問を
続けることで、さまざまな境遇の方
との出会いをご守護いただき、どう
すればこの方にたすかかってもらえ
かと、まさにおたすけ人となってい
きます。

丹精をし続け、教祖がお待ちくだ
さるおちばに人をお連れした感激は、
何ものにも代え難く、布教への夢と

ロマンが大きく膨らみます。

スタッフは、岡山寮派遣委員とし
て、数十人の住込人と共に毎日布教
に歩く教会長夫妻、また常時育成に
あたる係員も、二十数年の布教を経
てこの令和の時代に教会を設立した
人など幅広く、寮生と共に歩み、あ
らゆる相談に対応します。

今日も寮生は、教務支庁の玄関で、
その日の目標を大声で唱和し、その
勢いで街へと飛び出していきました。
にをいがけ、おたすけに、生涯か
けてどこまでも夢とロマンを求めて
いく。これが、岡山寮のスピリット
です。

ぜひあなたも、岡山寮で実践を積
み重ね、心から道を楽しみ、夢とロ
マン溢れる布教師となりましょう。

広島寮

男子6名



▲寮の紹介ページ
紹介ビデオも視聴できます



今から79年前、広島は人類史上初めて核兵器の惨禍に見舞われました。「75年は草木も生えぬ」と言われていた広島ですが、早くも道の布教師たちは、橋の下などをめぐらに人だすけに奔走していました。

そうした中、教区内の方々から「せめて布教師たちに夜露をしのげる場所を」との志が集結し、設立されたのが布教の家広島寮です。

以来、今日まで「とにかく歩く」を合言葉に、70年以上の年限の理を重ね、おたすけ心の轍を残してきました。歴代の卒業生は300名を超えています。

寮生は、毎朝8時半にお願いづとめを勤め、原爆ドームのある平和記念公園まで神名流しをします。そして、原爆の惨状を目の前に、「世界の平和は、教祖の御教えによって実現するんだ」との信念を握り締め歩

き始める。これが広島寮の日課なのです。

また、月に一度ほど、教区内各支部の布教活動へ参加します。教区青年会と連携をはかり、年間を通じて広島県中へ神名を流すのです。池へ落ちた小石が波紋を広げていくように、広島寮生が小石となって、県内の教友へ布教の波紋を広げていく役割を担います。

他県と例に漏れず、広島も決して布教が簡単な都市とは言えません。失敗や挫折を経験することもあろうでしょう。しかし悩める時は、寮長、副寮長をはじめ6名の育成委員が相談に乗ります。

教祖140年祭へ向かう三年千日の真ただ中。「ふしから芽が出る」ひながたの歩みを、真正面から辿らせたいかどうか。

愛媛寮

女子6名



▲寮の紹介ページ

紹介ビデオも視聴できます



愛媛寮は昭和46年に女子寮として開設され、以来約50年の間に150人余が卒業されました。

寮（教務支庁）のそばには道後温泉があり、寮生たちは毎朝、外国人観光客も多いこの温泉街周辺で神名流しとゴミ拾いを実施し、日中は市内各地を、戸別訪問を中心ににをいがけに歩きます。

寮の育成体制は、教区長をはじめ布教の家担当主事（寮長）と、育成委員で構成されています。

また、布教経験豊富な教区・布教部の先生方が、親身になって布教活動をサポートしてくださるのも、寮生にとっては大きな安心感となります。

日々のをいかけ・おたすけの実践と、先生方の体験を通したお仕込みによって信仰心を養い、おたすけ

のできるようほくへと成人させていただきます。

寮長はいつも寮生に「市内の一軒一軒のたすかりのために、親神様に祈って歩く心でをいがけに回らせていただきます」と話します。

一人でも多くの人のたすかりを願い、教祖のお供をさせていただき、布教力を培いながら、いずれ全国各地で道の台としても活躍できるように歩ませていただきます。

家庭的な温かさ、明るくのびのびとしたスタイルが愛媛寮の特徴であり、信仰に寛容的で、人当たりの穏やかな地域なので、布教経験ゼロの人でも、一から着実に布教力を身に付けていくことができます。

布教人生の第一歩を、夏目漱石の『坊ちゃん』ゆかりの四国松山の地で始めませんか。

福岡寮

男子6名



▲寮の紹介ページ
紹介ビデオも視聴できます

福岡寮は、昭和58年開設された九州唯一の布教の家です。

寮長・副寮長、布教熱心な教会長、布教の家OBの布教師で構成された育成員の計13名で、サポート体制を整えています。さらに教区の皆様が心を寄せてくださいます。また、布教経験の無い方でも安心して歩けるよう「にをいがけドリル」を実施します。

寮生の一日は、5時30分からの神殿掃除に始まり、その後、庁舎内の清掃、朝づとめ。8時40分からお願いづとめ、おかきさげの拝読。そして、庁舎前「黒門」バス停にて、よろづよ八首のてをどり、元の理の拝読、路傍講演を行います。そして晴れ晴れとした勇み立つ心で、それぞれの目的地に向かい、帰寮後は神名流しに歩き、夕づとめに続いてその

日の反省会をして一日を終えます。

寮祭は、先輩寮生がにをいかけたり、所属教会が遠方にある方々が参拝され、毎月20名以上で勤めます。おつとめ後、祭主を務めた寮生の感話と育成員の講話があり、反省会にて、一カ月の足跡を振り返り、今後の進め方について練り合います。

福岡寮はおぢばから遠く離れておりますが、一年間毎月初席者の御守護を頂戴しおぢばに帰った先輩寮生や、この地で布教への情熱を育み、にをいがけ・おたすけに励む布教師を多く輩出しています。

教祖140年祭三年千日仕上げの旬に、この福岡の地で辛抱強くコツコツと布教に歩き、教祖にお喜びいただけ「布教師」にならせていただくではありませんか！ スタッフ一同、全力で応援します！



布教の家所在地一覧

寮名	定員	設置年	所在地	電話番号
北海道	5名(男子)	昭和49年	〒064-0808 札幌市中央区南八条西11丁目1番1号	011-561-1148
青森	5名(男子)	平成4年	〒038-0014 青森市西滝2丁目12番1号	017-781-0050
東京	10名(男子)	昭和28年	〒170-0003 豊島区駒込7丁目1番4号	03-3917-0247
埼玉	8名(男子)	昭和59年	〒331-0814 さいたま市北区東大成町1丁目654番地	048-663-0444
愛知	12名(男子)	昭和26年	〒466-0064 名古屋市昭和区鶴舞3丁目15番18号	052-741-6363
石川	6名(男子)	昭和61年	〒920-0867 金沢市長土塀1丁目18番22号	076-222-0720
大阪	8名(男子)	平成元年	〒543-0036 大阪市天王寺区小宮町9番18号	06-6771-0012
和歌山	6名(男子)	平成6年	〒640-8137 和歌山市吹上3丁目2番46号	073-436-4445
岡山	6名(男子)	平成7年	〒700-0807 岡山市北区南方1丁目1番23号	086-222-5881
広島	6名(男子)	昭和28年	〒730-0004 広島市中区東白島町12番11号	082-221-1144
徳島	※募集なし	昭和60年	〒770-0908 徳島市眉山町大滝山8番地	088-654-3877
福岡	6名(男子)	昭和58年	〒810-0062 福岡市中央区荒戸3丁目1番9号	092-741-3857
千葉	8名(女子)	昭和63年	〒263-0033 千葉市稲毛区稲丘町5番15号	043-241-3191
兵庫	9名(女子)	昭和29年	〒657-0804 神戸市灘区城の下通2丁目8番1号	078-861-3392
愛媛	6名(女子)	昭和46年	〒790-0852 松山市石手5丁目8番27号	089-921-7372

※布教の家はすべて教務支庁内に設置されています。

立教188年度 布教の家 入寮要項

● 期 間

3月29日「入寮研修会」から、翌年3月末開催予定「卒寮の集い」まで

● 資 格

① 所属教会長ならびに直属教会長から推薦された天理教教人

▽ 出願時点で教人になっていなくとも出願はできますが、3月29日の「入寮研修会」までに教人登録または登録の手続きが完了していない場合は、入寮できません。

② 年齢は問わない。ただし、毎日布教に歩くことが可能であること

▽ おちばの修養科とは異なります。「布教の家へ入って身上のご守護を頂こう」というような理由での入寮はご遠慮ください。

③ 配偶者の有無は問わないが、単身での入寮に限る

注 原則として、一カ所の布教の家には一直属から

一人のみ入寮可とします。

● 携 行 品

寝具、おつとめ衣、ハッピーの帯(男子)、衣類、洗面具、筆記具、雨具、そのほか各自が日常で使用しているもの

● 貸 与 品

ハッピー(寮名入り)、名札

● 諸 注 意

① 寮費(生活費)は月6千円とし、自炊する。

寮費は、毎月26日までに、翌月分を保護者が布教一課に納入すること

▽ 4月分のみ、入寮研修会の受付にて本人に納めていただきます。

▽ 一括納入も可能です。

② 寮生は1年間、にをいがけ・おたすけに専念し、婦参者・別席者・修養科生を連れてのおちば帰り

および上級教会・所属教会参拝以外は、原則として布教地を離れぬこと。教会の祭典・行事、私事

③ 中途入寮は認めない
についても原則として認めない

●願 書

- ①入寮願書 1通(所定用紙)
- ②経歴書 1通(所定用紙)
- ③健康調査票 1通(所定用紙)
- ④小論文「入寮の動機および心構え」
- ▽200字詰め原稿用紙4～5枚程度。市販の用紙も可。
- ⑤写真2枚

▽半年以内に撮影したもの(免許証用のサイズ)。
▽布教中に携帯する身分証に使用しますので、身だしなみを整えて撮影した写真を用意してください。

▽2枚のうち1枚は経歴書に貼付してください。
※願書は布教一課へ取りにお越しください(配布は11月25日から)。また布教の家がある教区(教務支庁)でも配布しています。

※希望の寮は居住している教区の寮でも構いません。

●願書受付

1月25日午前9時から2月25日午後4時まで。布教一課へご持参ください。

※郵送での提出はできません。

※各寮(教務支庁)では受付できません。

●入寮者決定

2月27日に面接のうえ決定し、3月中旬ごろに本人・保護者・所属教会長へ通知します。

※面接は保護者同伴で行います。

※希望の寮が定員を超える場合は、原則として先着順で入寮者を決定します。

●入寮研修会

入寮許可者に対し、3月29日～30日の2日間、おちばにて「入寮研修会」を開催し、終了後そのまま布教地へ出発します。

※各寮までの旅費および4月分の寮費を、当日持参していただきます。

◇詳細は左記へお問い合わせください。

天理教布教部 布教一課

おやさとやかた南右第二棟2階

TEL 0743-63-2243



●編集・発行

布教部布教一課

TEL 0743 - 63 - 2243

●発行日

立教187年 9月26日

▼「布教の家」ホームページ



◎ 願書配布

11月25日 開始

◎ 願書受付

1月25日～2月25日

午前9時 午後4時